

研修目的

皮膚科学的な診察方法、皮膚症状の記載学、皮膚疾患の重症度の判定（特に専門医への紹介の必要性）、皮膚病理学の基礎の習得を通して、EBM を考慮した診療技術の体得を目指す。診断、治療については一般臨床医でも経験する頻度の高い疾患を対象とするが、研修期間中に診察した専門的な疾患のうち重要あるいは貴重な症例については詳細な検討を求める。皮膚科患者の QOL を低下させる病態、症状を理解し、指導医、コメディカル等と協力の上、それらの問題の解決法を検討する。皮膚癌を中心とした皮膚外科的な技術を習得する。日本アレルギー学会専門医教育研修施設でもあるので皮膚アレルギー疾患も研修する。

習得できるアウトカム（能力）

1) 必ず習得できるアウトカム（能力）

※習得することで診療科の研修を修了できます。習得できていないと評価を受けた場合は、研修期間が延長となります。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

2020 年度版医師臨床研修指導ガイドラインに示されている到達目標のうち下記を修了する。

○ 社会的使命と公衆衛生への寄与

説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供に努める。

○ 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減を優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

○ 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持ち接する。

○ 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察に努める。

B. 資質・能力

2020 年度版医師臨床研修指導ガイドラインに示されている到達目標のうち下記を修了する。

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。

② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。

③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。

④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。

⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。

② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。

② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。

③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。

② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。

③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。

② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。

③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。

④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

C. 基本的診療業務

2020 年度版医師臨床研修指導ガイドラインに示されている到達目標のうち下記を修了する。

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行うことができる。

皮膚科学における、必ず習得できる具体的なアウトカムは以下のとおりである。

1 皮膚科的診察から診断までのプロセスを学ぶ。

皮膚疾患の診断に必要な病歴を聴取し記載することができる。

皮膚病変を、発疹学に従い正しく記載することができる。

頻度の高い皮膚疾患（蕁麻疹、熱傷、感染症等）について、診断を行うことができる。

2 皮膚疾患の診断に必要な検査を選択し、実施することができる。

真菌直接検鏡・パッチテスト・ダーモスコピー・皮膚生検などの皮膚科的検査を習得する。

3 紫外線療法・生物学的製剤投与による皮膚科的な治療を学ぶ。

適応疾患を理解し、適切な光線療法・注射を施行することができる。

4 皮膚生検・皮膚癌などの皮膚外科手技を習得する。

5 皮膚アレルギー疾患を研修する（日本アレルギー学会専門医教育研修施設）。

初期研修医が皮膚科での研修期間を有意義なものにするため、下記の学習、手技獲得の目標を設定した。皮膚科で経験する疾患の数や種類に研修時期が大きく影響するため、下記の目標は必ずすべてを満たす必要はない（経験できない場合もあり得る）が、皮膚科を専門としない医師でも最低限経験しておくといふ手技や行為等を含めているため、努力目標としてなるべく経験できるように積極的に研修していただきたい。また、研修終了時に下記の目標の達成度を確認し、研修の振り返りを行う。また日本アレルギー学会専門医教育研修施設であるので、専門医取得へのステップを学ぶ。

皮膚科研修で習得する…

① 技術

- 1) 問診の取り方
- 2) 皮膚症状の記載
- 3) 真菌直接検鏡
- 4) ダーモスコピー
- 5) 皮膚生検

☐
☐
☐
☐
☐

② 知識

- 1) 皮膚科全般の基礎知識（頻度、鑑別、治療など） ☐
- 2) 皮膚アレルギー疾患の基礎知識（頻度、鑑別、治療など） ☐

皮膚科研修で経験する…

① 症例

- 1) 蕁麻疹 ☐
- 2) アトピー性皮膚炎 ☐
- 3) 丹毒・蜂巣炎 ☐
- 4) 薬疹 ☐
- 5) 血管炎 ☐
- 6) 膠原病 ☐
- 7) 皮膚癌 ☐

② 医療行為

- 1) 新患または紹介患者：問診、診察、治療方針の決定 ☐
- 2) パッチテスト：問診、診察、判定 ☐
- 3) プリック検査：問診、診察、判定 ☐
- 4) スクラッチ検査：問診、診察、判定 ☐
- 5) 皮膚生検の手術 ☐
- 6) 皮膚癌の手術 ☐

③ プレゼンテーション・論文

- 1) 担当患者のプレゼンテーション ☐
- 2) 症例のまとめ ☐
- 3) 皮膚科関連学会での発表 ☐
- 4) 皮膚科関連雑誌への投稿 ☐

2) 研修医の意向により習得できるアウトカム（能力）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナルリズム）

2020 年度版医師臨床研修指導ガイドラインに示されている到達目標のうち、必ず習得できるアウトカムに加え、下記到達目標を修了する。

○ 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、限りある資源に配慮した公衆衛生の向上に努める。

○ 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

2020 年度版医師臨床研修指導ガイドラインに示されている到達目標のうち、必ず習得できるアウトカムに加え、下記到達目標を修了する。

2. 医学知識と問題対応能力

③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。

② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。

③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。

④ 予防医療・保健・健康増進に努める。

⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。

⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

2020 年度版医師臨床研修指導ガイドラインに示されている到達目標のうち、必ず習得できるアウトカムに加え、下記到達目標を修了する。

2. 病棟診療

地域連携に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

具体的な指導方法・フィードバック方法（研修方略）

研修医は担任として指導医が充てられ、指導医の指導の下診療活動を行う。

行った診療活動は、指導医に報告し承認を受ける。

重要な診療活動は、行う前に指導医に相談し承認を受けて行う。

習熟度に応じ、指導医の承認を得られたものについては、単独で行う裁量を与える。

インシデント、アクシデント、針刺し事故のような医療事故に会った場合または予想される場合は、直ちに指導医に相談する。

●外来診療

新患の予診を担当し、現病歴・既往歴・家族歴・アレルギー歴・現症・鑑別を診療録に記載する。

新患の診療に陪席し、自らの診断の正否を確認し、治療を学ぶ。

指導医または症例担当医の指導の下、外来患者の診察を行う。

指導医または症例担当医の指導の下、皮膚科的検査・処置・小手術に参加する。

●病棟診療

指導医または症例担当医の指導の下、副担当医として症例を受け持ち、検査治療方針の立案策定、診療録記載、教授回診でのプレゼンテーション、退院サマリ作成、書類作成などを行う。

指導医または症例担当医の指導の下、皮膚科的検査・処置・小手術に参加する。

●手術

指導医または症例担当医の指導の下、手術介者として参加する。

指導医または症例担当医の指導の下、術前術後管理を行う。

●皮膚病理診断学習

生検や手術で得られた病理標本を指導責任者や指導医とともに観察し、皮膚病理診断法を学ぶ。

●学術活動

提供された学会発表と論文作成の機会に、学会発表準備方法、論文作成方法を研修する。

日本アレルギー学会専門医教育研修施設として、専門医取得へのステップを習得する。

●フィードバック方法

随時、皮膚科研修目標に挙げた各項目について、達成状況や改善すべき点などを、自己評価及び指導責任者または指導医による評価を行う。

研修期間終了時に、指導責任者または指導医が、本施設で定められた研修医評価方法に基づき評価を行う。結果をフィードバックする。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	08:30～12:00 外来/病棟診療	13:00～17:15 外来/病棟診療・小手術	
火	08:30～12:00 外来/病棟診療	13:00～17:15 外来/病棟診療・小手術	
水	08:30～12:00 外来/病棟診療 手術室局所麻酔手術	～13:00 の適時 皮膚病理カンファレンス 13:00～15:00 入院患者カンファレンス及び教授回診	～17:15 の適時 (学会発表予行)
木	08:30～12:00 外来/病棟診療 (手術室全身麻酔手術)	13:00～15:00 外来患者カンファレンス (手術室局所麻酔手術)	～17:15 の適時 (学会発表予行)
金	08:30～12:00 外来/病棟診療	13:00～17:15 病棟診療・小手術	

() は適宜行われる。

カンファレンス開催曜日は参加医師の都合により変更されうる。

夕方は研究【臨床・基礎】に充てることができる。

指導責任者および指導医

指導責任者： 川上 民裕

指導医： 池田 高治

横山 華英

林 昌浩

岩間 英明

学会発表・論文作成に対する指導体制

研修医が自ら経験したり興味を持ったりした症例や発表に適切な症例について、発表や論文作成の機会を提供し、指導責任者と指導医が複数の上級医として十分な指導（発表のための文献検索方法、スライド作成方法、プレゼンテーションのスキルなど）を行い、研修医の自己研鑽とキャリア形成に生かせる学術活動を支援する。

研修医の希望の程度により、院内研修医発表会から皮膚科関連学会発表、和文から英文論文作成まで、幅広く対応する。